

あお しま かい づか
青 島 貝 塚

調査要項

遺跡名：青島貝塚（宮城県遺跡地名表登載番号：58007）

所在地：宮城県登米市南方町南方字青島屋敷

調査理由：市道青島3号線建設工事

調査主体：登米市教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査期間：平成17（2005）年10月11～12日

調査面積：260m²

調査員：菊地 逸夫、須田 良平、村上 裕次

1. 遺跡の概要

青島貝塚は登米市南方町南方字青島屋敷に所在する。本貝塚が位置する南方および迫にかけては、奥羽山系から派生する丘陵が東へ延び、幾重にも開析されて樹枝状の支谷が形成されている。付近には、追川の遊水池であったとされる伊豆沼、内沼、長沼といった湖沼群が広がっており、その周辺の丘陵には縄文時代の淡水性の貝塚が多く分布する。本貝塚の周辺には、堂地遺跡（縄文前～後）、大岳遺跡（縄文前・中）、堀切遺跡、平貝貝塚（縄文晩）、上ノ台遺跡（縄文前～晩）、觀音寺貝塚（縄文前～晩）、八ノ森貝塚（縄文前・後・晩）、川戸沼貝塚（縄文前）、大多古貝塚（縄文中～晩）等の縄文前期から晩期までの貝塚が所在する。

青島貝塚は標高20mほどの独立丘陵上に位置する。貝層は丘陵の裾部に近い北斜面（北貝層）と南西斜面（南貝層）の2カ所に形成されている。規模は、北貝層が東西300m×南北150m、南貝層が東西30m×南北40mである。貝層はオオタニシ、スマガイ、イシガイが主体である。貝層に伴って出土する土器は縄文時代前期から後期にかけてで、主体は縄文時代中期中頃から後期初頭である。

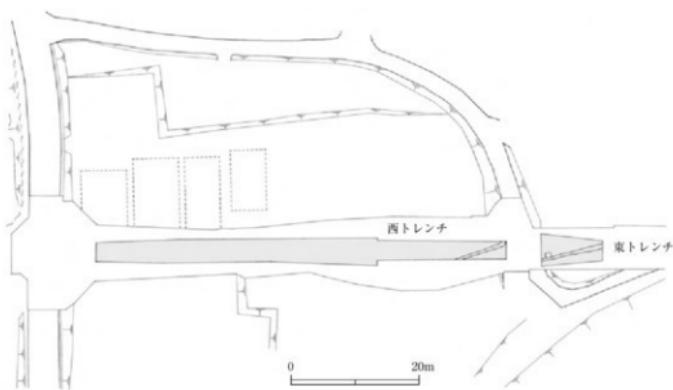
本貝塚ではこれまで2度の調査が行われている。最初の調査は、大正7年の松本彦七郎によるもので、丘陵北側で内陸部淡水産の貝類を中心とした大規模な貝層と、縄文時代に属する14体の埋葬された人骨が検出された（松本 1930）。昭和44・45年の調査は南方町史編纂の一環で、大正7年の調査の隣接地を対象とした（加藤・後藤 1975）。この調査では、縄文時代中期から後期を中心とした土器と、土偶等の土製品、石器・石製品、骨角器、動物遺存体が多数出土し、さらに埋葬された人骨が9体検出された。また、竪穴住居等の遺構も確認されている。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 調査区と貝層の位置



第3図 トレンチ配置図

2. 調査の経過

今回の調査は、遺跡南側に位置する市道の改修工事に伴うものである。道路建設範囲が南貝層の北側縁辺部に近接することから、貝層の有無、遺構の確認を目的に調査を行った。

調査区は現在の道路を挟んで東側（39.2m）と西側（221.3m）の2ヶ所である。調査区周辺の現地形は、西へやや緩やかに傾斜するものであったが、重機で耕作土を除去した結果、旧地形は北および北西方向へやや急角度に傾斜しており、西側トレンチの中央部では調査区の北側に沢の落ち込みが認められた。遺構は、東側トレンチで北東から南西へのびる溝1条とそれに切られる土壙1基が、西側トレンチでは東端で北東から南西へのびる溝1条とそれに切られる風倒木痕が検出された。両トレンチで検出された遺構から遺物の出土はなく具体的な時期比定は困難だが、堆積土の特徴からいずれも比較的新しいものと判断した。遺物は耕作土から縄文土器と土師器が数点出土したが、貝殻等は認められなかった。図面については、工事基準点を基にS=1/250で調査トレンチと検出遺構の平面図を作成し、適宜それに土層の特徴を記入した。写真撮影には35mmカラーを使用した。

3.まとめ

今回の調査区からは貝層は確認できず、かつ調査区の周辺からも貝殻の散布は認められなかった。したがって南貝層は今回の調査区まで広がらないと考えられる。

引用・参考文献

- 加藤 孝・後藤 勝彦 1975 「登米郡南方町青島貝塚発掘調査報告」「南方町史資料編」pp.3~274
東北歴史資料館 1989 「宮城県の貝塚」東北歴史資料館資料集25
松本彦七郎 1930 「陸前国登米郡南方村青島介塚調査報告」「東北帝国大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告」9 pp.1~48



東トレンチ（東から）



西トレンチ（東から）



西トレンチ（西から）

おお はし かい づか
大 橋 貝 塚

調査要項

遺跡名：大橋貝塚（宮城県遺跡地名表登載番号：13051）

所在地：宮城県亘理郡亘理町長瀬字大橋5、7-2

調査理由：資材置場建設に伴う確認調査

調査主体：亘理町教育委員会

調査協力：宮城県教育庁文化財保護課

調査期間：平成17年（2005年）5月23・24日

調査面積：約230m²（対象面積約5,672m²）

調査員：鈴木 朋子（亘理町教育委員会）

佐藤 則之、須田 良平、佐藤 憲幸（宮城県教育庁文化財保護課）

1. 遺跡の位置と環境

大橋貝塚は亘理町東部、亘理郡亘理町長瀬字大橋に所在し、枝川排水路に架かる長瀬大橋東部に位置している。亘理町の東部には沖積地が広がり、遺跡の約0.8km東方には阿武隈川の河口湖である島の海がある。この周辺には浜堤が発達しており、遺跡はこの旧浜堤である標高1mほどの微高地に立地している。

本遺跡は、県南の阿武隈川下流域貝塚群の一つであり、遺跡の範囲は東西約70m×南北約130mである。貝層は遺跡の中央北寄りに東西約50m×南北約75mの範囲で分布し、鹹水産を主体とするカキ、ハマグリ、ヤマトシジミ、ウミニナなどの貝類が出土している。また、内黒土師器、須恵器、製塙土器などが採集されており、平安時代の製塙遺跡とも考えられている。

周辺に遺跡の分布は少なく、約2.2km南に位置する大塚古墳（円墳）が最も近い遺跡である。町内の遺跡の多くは、町西部の阿武隈山地から発達した丘陵沿いに分布しており、古代の遺跡では町中心部の堀の内遺跡や南部の宮前遺跡などがある（第1図）。



No.	遺跡名	立地	種別	時代	No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	大塚貝塚	浜堤	貝塚	平安	10	鳥脚遺跡	丘陵斜面	散布地	古代
2	大塚古墳	浜堤	円墳	古墳中	11	北長瀬遺跡	丘陵麓	散布地	古代
3	駐城跡	丘陵	城館・駐城	弥生、古墳、中世、近世	12	前原遺跡	丘陵斜面	散布地	古代
4	屋の内遺跡	丘陵麓	集落	弥生、古墳、平安、中世	13	河原横穴墓群	丘陵斜面	横穴墓	奈良、平安
5	芋ノ人遺跡	丘陵斜面	散布地	弥生、古代	14	宮前遺跡	丘陵	集落	弥生、古墳、古代
6	松葉遺跡	丘陵斜面	散布地	禪文様・绳、古代	15	長瀬口古墳群	丘陵	古墳群・古墳・洋	古墳前・中
7	電門寺前遺跡	丘陵斜面	散布地	弥生、古代	16	油田遺跡	丘陵	散布地	古代
8	砂堀場遺跡	丘陵	散布地	古代	17	平場遺跡	丘陵	散布地	古代
9	中物遺跡	丘陵	集落	古代	18	長瀬ガーデン前遺跡	丘陵斜面	散布地	古代

第1図 遺跡の位置と周辺の地形 (1/25,000)



第2図 調査区の位置と周辺の地形 (1/10,000)

2. 調査の経緯と経過

今回の調査は、遺跡内に計画された加藤建材工業株式会社による資材置場設置計画に伴い、遺跡の範囲確認のため実施したものである。調査期間は平成17年5月23、24日の2日間である。

調査は、計画地内に幅約3mのトレンチを7箇所設定して（1～7トレンチ）行った。その結果、1トレンチでは表土上面から40～60cmの褐色砂層の地山面で溝跡を検出し、2・6トレンチでは、地上層の黒褐色シルト層で貝層を確認した。3・5トレンチでは遺構の検出はなかった。4・7トレンチと6トレンチ南端は搅乱により深く落ち込んでおり、遺構・遺物もなく、湧水もみられたため調査を終了した。

遺構の検出が少なかったため、記録は500分の1平面図作成と土層註記を行い、併せてデジタルカメラによる写真記録を行った。

3. 調査の成果（第2図）

今回の調査で発見した遺構は、溝1条、混貝土層2箇所である。

溝は1トレンチ中央地山面で検出した。幅40～60cm程、検出長は約5mの南北方向の溝で、さらに南北に延びていると考えられる。断面は一部掘り下げたところで皿状を呈し、深さは20cm程である。堆積土は地山の混じる灰褐色の砂層である。

混貝土層は2トレンチ中央部と6トレンチ北端の地山直上の土器片を含む黒褐色シルト層である。

遺物は全て遺構確認中に出土したもので、土師器片（内面黒色処理、ロクロ調整坏片を含む）、須恵器片、土製支脚、獸骨片、ハマグリ、カキが少量出土した。

今回の調査による遺構・遺物の検出は少なかったが、貝層分布については、これまで考えられていた範囲の南端を確認した。貝層は調査区北部に広がっていると考えられる。また、遺構の時期は出土遺物からみて平安時代と考えられる。

参考文献

- 志間 泰治 1975 『亘理町史上巻』
東北歴史資料館 1989 『宮城県の貝塚』東北歴史資料館資料集25

調査区遠景
(北西から)



1 トレンチ溝跡検出状況
(北から)



3 トレンチ全景
(北から)



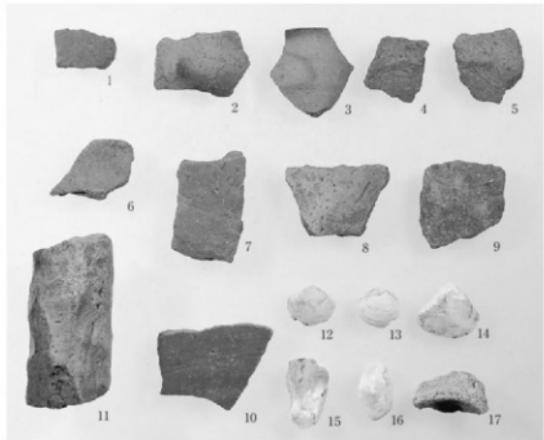
図版 1



6 トレンチ全景
(北から)



2 トレンチ南壁
貝層検出状況



出土遺物

1 頭患器 2~10 土師器 11 上製支脚
12~14 ハマグリ 15,16 カキ 17 股骨片

図版 2

こもりいせき 小森遺跡

調査要項

遺跡名：小森遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号：17036 遺跡記号：UZ）

所在地：宮城県宮城郡松島町高城字小森

調査理由：個人住宅建設に伴う確認調査

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査期間：平成17年7月14日

調査対象面積：268m²

調査面積：20m²

調査員：佐藤 則之、須田 良平、佐藤 憲幸

1. 遺跡の位置

小森遺跡は宮城郡松島町高城字小森に所在する。本遺跡は宮城県の太平洋岸のほぼ中央にあたる松島町の中央部に位置し、西から海に向かって延びる丘陵の端部、標高約10mの箇所に立地する。遺跡の範囲は、現在、宅地や畑として利用されており、周辺には古墳時代の円墳や中世の城館跡、古代の散布地などがみられる（第1図）。



第1図 遺跡の位置

2. 調査に至る経緯と調査の概要

今回の調査は個人住宅建築計画に伴う確認調査であり、調査対象地は遺跡の北端部、松島第二小学校より、田中川を挟み南西約130mの地点である（第2図）。

今回の住宅建築計画は、現在畑となっている東西約15.5m、南北約17m、面積約268m²の敷地の北寄りに、新たに建設するものである。建物基礎はペタ基礎工法によるもので、遺構への影響は少ないと考えられたが、遺構検出面の深さや、遺構の分布状況を把握するため、確認調査を行うこととした。

調査は建物部分に2つのトレンチを設定して実施した（第2図）。重機による表土除去後、遺構確認作業を行った結果、地表下約30~70cmの深さで、灰白色火山灰に覆われる遺物包含層を検出し、第1トレンチでは焼け面1箇所（SX 1）を確認した。

遺物は焼け面や遺物包含層確認面から土師質土器、須恵器等が少量出土している。

遺構確認作業終了後は、トレンチ及び遺構のデジタルカメラによる写真撮影と埋め戻しを行ってすべての調査を終了した。建築計画については、遺構面保護のため、盛土による整地を行いうよう事業者に要望し、了解を得た。

基本層序及び発見された遺構・遺物の詳細は次の通りである。

【基本層序】

- 第1層：表土（厚さ30~70cm）
第2層：暗褐色シルト質粘土層（粘性あり、しまりなし、厚さ10cm）
第3層：灰白色火山灰層（第2トレーニング中央部に部分的に分布）
第4層：黒褐色シルト質粘土層（粘性、しまりあり炭化物多く含む、厚さ15cm）
第5層：暗褐色粘土層（粘性、しまりあり黒褐色ブロック含む、厚さ10cm以上）
※第4・5層が遺物包含層である。

【SX1 焼け面】（第3図）

第1トレーニング西側で確認した。確認面は基本層位第4層上面、灰白色火山灰層との関係は不明である。平面形は不整形を呈しており、規模は径約40~50cmで、さらに調査区外へ延びる。表面が硬化・赤色化し周辺には焼土や炭化物が広がっている。

遺物は、ほぼ完形の土師質土器小皿2個体が出土している。ともにロクロを使用して成形されており、摩滅により不明瞭であるが底部には回転糸切り痕が認められる。1は口径9.0cm、底径4.6cm、器高1.9cmで内面をコテ状工具でナデ調整されている。2は口径9.1cm、底径4.1cm、器高2.1cmで高さ1.0cmの中実の高台が付く。内面はロクロナデの痕跡をそのまま残している。

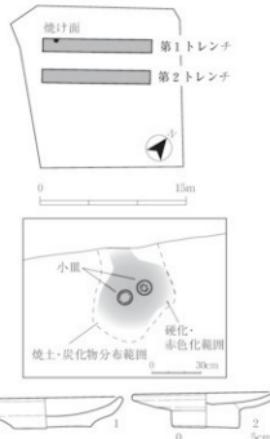
時期は多賀城跡S K78土壙出土土器（多賀城跡調査研究所・宮城県教育委員会 1982）や山王遺跡多賀前地区S E3207井戸跡出土土器（宮城県教育委員会 1996）等に類似した土器が認められることから、概ね10世紀後半頃のものと考えられる。

参考文献

- 多賀城跡調査研究所・宮城県教育委員会 1982：『多賀城跡－政府本文編－』
宮城県教育委員会 1996：『多賀城跡調査研究年報1993』



第2図 調査区の位置



第3図 SX1 焼け面および出土土器



1. 第1トレンチ（東から）



2. 第2トレンチ（西から）



3. 焼け面検出状況



4. 土器出土状況



5. 出土土器

にし だて たて あと
西 館 館 跡

調査要項

遺跡名：西館館跡（宮城県遺跡地名表登録番号：08054）

所在地：宮城県柴田郡柴田町大字中名生字宮前

調査理由：①共同住宅建築 ②携帯電話無線局建設

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査期間：①平成17（2005）年6月22日 ②平成17（2005）年11月10日

対象面積：①732m² ②150m²

調査面積：①40m² ②60m²

調査員：佐藤 則之、須田 良平、佐藤 憲幸

1. はじめに

西館跡は、柴田郡柴田町大字中名生字宮前に所在し、柴田町役場の東約2.4kmに位置する。遺跡の東側を阿武隈川が北流し、遺跡の北東約1.6kmの地点で合流する白石川と阿武隈川に挟まれた沖積地上に立地する。現在は宅地と畑地、林などとなっており、周辺の水田と比べてわずかに高くなっている。

柴田町内には15ヶ所の城館跡があり、そのほとんどが丘陵上や山地部に立地する。平坦地に立地する、いわゆる平城と呼ばれるものはこの西館跡と入間野平城だけである。

館の構造については、杏澤良夫の調査に詳しい（杏澤 1975）。それによると、残存する土塁や堀から推定される館の範囲は東西300m、南北200mで、その中には幅3～5mの堀や基底幅4m、高さ3mの土塁などによって区画された部分が認められるという。杏澤の調査した1970年代には館の西側や北側には上記の堀や土塁が一部残存していたが、現在はその後の改変により北東部や西部の堀や堀跡と推定される窪地になった水田などにより館の構造を推定することしかできない。また、館内には北の屋敷や館内、西館、御上、馬場など、館との関係を伺わせる地名も残存している。この館の築城年代や館主などについての詳細な記録は残存していない。しかし、16世紀後葉に伊達家臣の中名与市郎が居館していたことが『性山公治家記録』や『貞山公治家記録』などにより、また、寛永年間から天保年間までは伊達家臣の安倍氏が中名生村に在住していたことが安倍氏系図により推定されている。



1. 西館跡 2. 宮前道路 3. 八幡前道路 4. 船岡追道路 5. 西田道路 6. 八幡堂後道路 7. 町史跡 剣塚古墳
8. 明神堂道路 9. 白石川下流道路 10. 岩ノ入道路 11. 入袋道路 12. 大橋道路

第1図 遺跡の位置

2. 調査に至る経緯と調査の概要

調査は共同住宅建設予定地と携帯電話基地局建設予定地の2ヶ所で行った。どちらも、遺跡の範囲内で行われる計画であるため確認調査を実施したものである。2地点共に館跡の東側の畠地に位置し、それぞれ南東地点、北東地点とする。

南東地点の調査対象範囲は732m²である。その範囲内に2ヶ所のトレンチを設けて調査を行った。調査面積は40m²である。調査の結果、厚さ約30cmの表土の下に厚さ約1.1mの近世以降と推定される土盛りがあり、その下位にはシルト質粘土がグラウシ化した水成堆積層が認められた。遺構、遺物は検出されず、「馬場」という地名から推定される馬場としての機能を示す痕跡は認められなかった。

北東地点の対象面積は150m²である。当初の計画地は遺跡東辺を南北に走る町道から西に約40m離れた地点であった。当該部分にトレンチを設けて調査したところ、厚さ約30cmの表土の下に土器や炭化物、焼土を含む黒褐色土層があり、その下位の褐色砂質土層上面において東西に延びる溝1条やピット数個などが検出された。これらの精査は行わなかつたために詳細は不明であるが、周囲で検出された遺物などから、古代以降のものと推定された。そこで、地権者の了解を得て、同じ畠地東側の町道脇にも2本のトレンチを設けて調査を行ったところ、表土から若干の遺物は検出されたが、遺構は全く認められなかった。

この結果をもとに、当初の計画地ではなく、遺構が分布しない町道脇の地点において施行するよう開発業者に要望し、その後の地権者との交渉や設計の変更などにより、町道脇の地点において施行されることとなった。

なお、北東地点からは、館に伴う遺構や遺物は検出されず、館の北東辺を区画すると推定される堀の北側に位置することから、当該部分は館の範囲外と思われる。

参考文献

- 紫桃 正隆 1974 『仙台領内古城・館』第4巻
- 香澤 良夫 1975 「西館址について」『郷土研究会会報』第8号 柴田町郷土研究会
- 柴田町教育委員会 1979 「西館」「柴田町の文化財－城と館－」第10集
- 柴田町史編さん委員会 1983 「柴田町史資料篇1」



第2図 調査区の位置



第3図 館跡の略図

(柴田町教委 1979より)



北東地点遠景
(北西から)



北東地点
西側トレンチ遺構検出状況
(北から)



北東地点
東側トレンチ調査状況
(南から)

報告書抄録

ふりがな	ひがしやまかんがいせきしゅうへんちくほか					
書名	東山官衙遺跡周辺地区 ほか					
副書名						
卷次						
シリーズ名	宮城県文化財調査報告書					
シリーズ番号	第208集					
編著者名	佐藤 則之 佐久間光平 菊地 逸夫 須田 良平 佐藤 憲幸 村上 裕次 鈴木 明子					
編集機関	宮城県教育委員会					
所在地	〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1 TEL 022-211-3682					
発行年月日	西暦2006年3月31日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コ一ド	世界調査系	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯 東經		
東山官衙遺跡 周辺地区	加美郡加美町 鳥崎・鳥屋ヶ崎	044458	—	38° 36' 5"	140° 48' 7"	2005.06.06 ~07.15 11.21~11.30
浦宿B遺跡	牡鹿郡女川町 浦宿浜字浦宿	045811	73028	38° 26' 5"	141° 26' 38"	2005.07.08 2005.08.29 ~09.14
青島貝塚	登米市南方町 南方字青島敷	042129	58007	38° 40' 13"	141° 9' 6"	2005.10.11 ~10.12
大橋貝塚	亘理郡亘理町 長瀬字大橋	043613	13031	38° 1' 45"	140° 53' 20"	2005.05.23 ~05.24
小森遺跡	宮城郡松島町 高城字小森	044016	17036	38° 23' 39"	141° 3' 43"	2005.07.14
西館館跡	柴田郡大字中 名生字宮前	043231	08054	38° 3' 18"	140° 47' 47"	2005.06.22 2005.11.10
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東山官衙遺跡 周辺地区	散布地 官衙	縄文 古代	土壙跡・堀跡	縄文土器・石器 土師器・須恵器	東山官衙遺跡の外郭施設の確認	
浦宿B遺跡	散布地 貝塚	縄文 古代	堅穴住居跡 遺物包含層	縄文土器・石器、土師器・須恵器、魚骨・貝	縄文時代前期初頭の遺物 包含層	
青島貝塚	貝塚	縄文 前~後期		縄文土器		
大橋貝塚	貝塚	平安	溝跡	土師器、貝・動物遺体		
小森遺跡	散布地	古代	焼面・遺物包含層	土師器		
西館館跡	集落跡 城館跡	古 中 代 世	溝跡・ビット			